

大切なことは“つながる人”を持つこと

— 令和2年度 地域ふれあい講演会 —

令和3年2月11日(木)、浜松市福祉交流センターで令和2年度「地域ふれあい講演会」が開催されました。

講師は社会福祉法人Mネット東遠・八木光春理事長にお願いし、「障害者とともに生きる地域共生社会を目指して—親亡き後を託す不安と希望—」というテーマで講演いただきました。

参加者は20名。家族会が12名、その他が8名でした。それぞれが密にならないよう座ってもらい、マイクも使うごとに消毒する等の工夫をしました。

講演は、最初に講師から参加者に「名前、困りごと、当事者の良い点を交えながら自己紹介して下さい」というオーダーがあり、マイクを回しながら全員が発言できました。そのため緊張感がほぐれ会場が和やかな雰囲気になりました。

配布資料から、八木理事長が率いる「Mネット東遠」の多様な事業の紹介と説明がありました。その話しでは、事業の根幹は「事業理念、運営の基本方針」を職員同士が共有し人間観を育てていくことが大切である、と感じました。

また、「Mネット東遠」では利用者に支給する工賃を一律380円にしているとのこと。これも運営哲学なのです。不満を言う利用者はいないという説明でした。工賃に能率給の考え方を導入している事業所が多いなか、一種の“カルチャーショック”でした。次いでストレングス、リフレーミング、高EE、ネガティブ・ケイパビリティ等の意味を具体例に説明を受け、家族が当事者に日々接していく時の大切な視点を再確認させてもらいました。これらの内容は家族のエンパワメントの源泉になりますので、これから家族ピア学習会等で繰り返し学んでいきたいと思えます。

最後に、八木理事長の「一人でもいいので相談できる人、つながる人を作ってください」という言葉の大切さを再確認させていただき、好評のうちに講演会を終了しました。(赤池 千明)

*講演会の資料をご希望の方は事務所までご連絡ください。講師のご厚意でコピーして提供いたします。



理事会の報告 —令和2年12月から令和3年2月—

未曾有の「コロナ禍」は縮小傾向にあるもの未だに収束が見えません。次年度の事業計画予算を念頭に置きながら理事会で方向性を確認、検討する時期であったと思います。毎月の理事会では、家族会とB型事業所について、①経営収支を含め運営状況の確認、②前月の事業総括と次月の事業調整、③運営に関する課題・問題への対応と検討等を定例の議事を話し合っています。

家族会関係では、1月20日現在で会員数(社員)は96名。会員の高齢化という実際が身近に感じられる現実の中、次年度の活動を検討していきたいと思います。特に、「新会員の募集」と「活動費の調達」に注力していく必要性を強く感じております。そのためにも家族ピア学習会、浜松市家族教室への協力、広報つながりの発行、ふれあい講演会、家族による家族相談センター等々の活動を着実に実行し、市民や関係機関への理解と浸透に努めたいと思います。

B型事業所「つばめ創社」は、今年度の事業計画の大きな柱であった新規事業への取り組みがコロナ禍の影響もあり計画は遅れる見込みです。しかしながら利用者数は1日平均で20名を超え、コロナ禍の中でも作業も切れることなく継続できております。これは大変喜ばしいことです。また、利用者の方々も高齢化傾向が顕著になりつつあり、現在のB型事業所だけではなく幅広く利用者のニーズに対応できること、換言すれば利用者のライフサイクルに対応した福祉サービス体系の整理が必要と実感いたします。

なお、令和3年の通常総会は5月23日(日)、浜松市福祉交流センターで開催します。

12月～3月上旬までの活動報告

12月2日(水) 広報誌「つながり34号」発行。

12月13日(日) 第9回理事会。つばめ創社食堂にて。参加者理事7名。

12月15日(火) 統合失調症家族教室(浜松会場、第2回)浜松市精神保健福祉センターにて。
参加者5名。

12月20日(日) 第4回家族ピア学習会。明生会事務所にて。参加者7名。

令和3年

1月10日(日) 第10回理事会。つばめ創社食堂にて。参加者理事8名。

1月19日(火) 統合失調症家族教室(浜松会場、第3回)浜松市精神保健福祉センターにて。
参加者4名。

1月24日(日) 第5回家族ピア学習会。明生会事務所にて。参加者10名。

2月2日(火) 統合失調症家族教室(浜松会場、第4回)浜松市精神保健福祉センターにて。
参加者4名。

2月11日(木) 第11回理事会。浜松市福祉交流センター21会議室にて。
参加者理事5名。

- 2月11日(木) 地域ふれあい講演会。浜松市福祉交流センター21会議室にて。
講師 八木光春氏。(社会福祉法人Mネット東遠理事長)
参加者理事、相談員、つばめ職員等 20 名。
- 2月23日(火) 臨時理事会。つばめ創社にて。
参加者7名
- 2月25日(木) 静岡県精神保健福祉会連合会、代表者会議。静岡シズウェルにて。
- 2月28日(日) 令和2年度西部地区交流会。ワークピア磐田2F視聴覚室にて。
参加者 4 名。
- 3月 2日(火) 統合失調症家族教室。(家族同士の交流会第 2 回運営会議)
精神保健福祉センターにて。参加者4名。
- 3月 5日(金) 家族相談員研修会。浜松市武道館会議室にて。
参加者相談員7名、東区相談センター員2名。

残念ですが「友の会」は中止になりました。

2月 7日(日)「ボーリングを楽しむ会」を予定していましたが緊急事態宣言が出たため中止になりました。

公認心理師の晴耕雨読

「家族ピア学習会」で10月から「親亡き後・自立のための整理事項」に参加しています。そこでの資料の中にCOMHBOによる「親なき後に備える」のアンケートがあり、「本人が自分のことで心配していること」の順番では、①お金のやりくり②家の管理③寂しさ孤独感④生活全般⑤相続や財産管理⑥親戚とのつきあい⑦近所とのつきあい(以下略)、などとのことでした。また、「親亡き後の精神障害者の地域生活を見据えた親の準備の解明」(第66巻日本公衛誌第2号)では、①当事者の病状が安定していることを前提に、親の身辺整理、重要事項のメモ、遺言書などを当事者と相談②当事者の住まい、生活資金の確保③相互支援の家族会への参加、親自身の健康維持、当事者の病状安定を図る④当事者の自分で生活できる意識をはぐくみ、親以外の頼れる人を作る、楽しみや就労・通所場所、などを順に支援者側が家族と相談し支援できたらとのことでした。(高柳 弘行)



「当事者さんの日頃の生活や想い」

病気をかかえながら日々生活されている当事者さんに今の暮らしぶりを教えていただきました。

私は今就労を目指してつばめ創社に通い作業を頑張っています。

私の当面の目標は、「自立」です。「自立」とは自分の行いに責任を持つことだと思います。

つばめ創社にもコロナ禍の影響が少なからずありますが、「自立する」という確固たる信念を持ち作業に取り組んでいます。

つばめ創社の高橋浩万施設長、職員さん、メンバーさん達と共に協力し、良い一年となりますよう努力をしていきたいと思っています。

毎日の小さな「志」の積み重ねを大切にして、私自身のつばめ創社に対する信用を、築いていきたいです。私は悩み事の多い人間ですが、その気持ちに負けないように病気を克服していきたいと思っています。ご支援、宜しくお願いします。

(つばめ創社 豊田幸司)



ひとり暮らし

この文の依頼が来た時、正直何を書こうか悩みましたが三本柱を立てました。

一つめは学生時代、二つめは母親との二人三脚、三つめは一人暮らしです。

学生時代は東京に住んでいましたが正直住みにくいと思いました。先輩が東京は人情が無いって言ってましたが確かにその通りです。例えば銀行の受付嬢の説明の態度がよくないし他にも通りでぶつかってもこちらはすみませんでしたと云っても相手はだまっただまだったり。

次に帰郷して母親と一緒に暮らしていましたが、腰の弱い僕には母の介護はとても重荷でありました。

二年前に母親が他界して現在一人暮らしをしています。はじめは少し寂しい事もありましたが今は悠悠自適に暮らしています。つばめ創社で作業をしたり職員の方々やヘルパーさんに助けられて生活しています。

余談になるけど図書館で借りた瀬戸内晴美の「ひとりでも生きられる」という本は全編に渡っての恋愛論で、一人暮らしの参考にはならないようです。

(つばめ創社 松本 由紀夫)



母が六年前に、父が三年前に死去し、今はひとり暮らしをしています。住んでいる家は両親が残してくれた一軒家です。お金と住む所を残してくれたので、大分助かりました。

私は、八年前に悪性リンパ腫にかかり、抗癌剤治療をしました。その前から母親の介護をしていたので、抗癌剤治療と介護の両立はかなりきつかったです。

六年前に母が死去してから、すっかり弱った父の介護が始まりました。でも、こうして一人になってみると、家族がいた頃が懐かしくてたまりません。どんなに大変な思いをしても独りぼちよりは良かったと思ひ出されます。

私は二十年ほど前から、書きたい時に書きたいだけ書く自由日記を始めました。愚痴を書いたりコンサートや美術館などのチケットを貼り感想を書いたり、結構良いはけ口になってくれます。

(ペンネーム ズンサ)



再就職して感じたこと

(T.M)

私は昨年8月から近隣の金融機関で事務職のパート職員として働いています。仕事は主に業務で使用する資料の作成や営業店の業務結果を集計して表にまとめる作業で、1日6時間の時短勤務者として毎日通勤しています。前職で体調を崩して退職してからしばらくの間休養していましたが、就労支援機関のサポートを受けながら2019年の10月から3か月程度職業訓練に通い、職場での実習を通して現在の仕事に就くことができました。再就職したばかりの頃は体力的にもあまり余裕がありませんでしたが、最近では業務にも慣れ、無理をせずに働くことができます。

再就職した今強く感じていることは、素直に前向きに行動を起こしていくことの大切さです。私は対人関係や電話対応などの判断力が必要な業務は得意ではなく、前職でもそれが原因で体調を崩してしまいました。現在の仕事に就く際にそのことを正直に伝え、パソコンでの作業が得意であることを伝えたところ、たまたま欠員の出ている募集内容とは違う職場での勤務を提案していただくことができました。また現在では、就労支援機関の担当の方に、その方を通して募集先の企業との連絡を行うといった細かいサポートもしてもらうことができ、他者とのやり取りが苦手な自分にとってはそうした支援を受けられたことも大きかったかもしれません。職業訓練で学んだExcelの知識も今の仕事に役に立っており、前向きに頑張った結果が再就職に繋がったように思います。現在は作業時間を短くするためにExcelのマクロ機能を使えるように少しずつですが勉強しています。大変な情勢下ですが、今後も前向きに無理をしないように頑張っていきたいと考えています。



今後の活動予定

3月14日(日)第12回理事会。つばめ創社食堂にて。13:00～。

3月28日(日)家族ピア学習会。明生会事務所にて。13:00～15:00。参加費 300 円。

4月11日(日)令和3年度第1回理事会。つばめ創社食堂にて。13:00～。

4月25日(日)家族ピア学習会。明生会事務所にて。13:00～15:00。参加費 300 円。

5月23日(日)令和3年度通常総会。詳細は後日別便でお知らせします。

尚、新型コロナウイルス感染の影響のため予定が変更、中止となる場合があります。ご了承下さい。

加入へのご案内

● ボランティア活動保険 (浜松市社会福祉協議会)

期間 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

年間保険料 基本/Aタイプ: 350円

◎活動場所への往復途上のケガや、活動中の賠償責任の補償などが対象となります。

(担当 鈴木陽子)

● 月刊 みんなねっと (公益社団法人全福連発行)

期間 (令和3年4月号～令和4年3月号) 1年間12冊

年間購読料: 3600円 *郵送料は会で負担します。

◎全国の家族と家族をつなぐ機関紙&精神保健福祉情報誌です。

精神保健福祉の最新情報が掲載され、また問題提起もされていて勉強になります。

ぜひご購入下さい。

(担当 中村卓広)

申し込み希望者は3月31日(水)までに、必ず代金を添えて明生会事務所までお申し込み下さい。☎053-442-1988

*詳細は各担当者にお問い合わせ下さい。

編集後記

今年の3月11日で東日本大震災が発生して10年になります。その事を忘れないよう備えなければいけないと思います。またコロナウィルスもまだまだ収束には時間がかかりそうです。そうは言っても季節は確実に移り暖かく、木々は緑を増し花々も咲くでしょう。希望を持って皆さんと活動していきたいと思います。今年度もよろしくお祈りします。(鈴木 智子)